

平尾地区

令和7年11月29日（平尾自治会館）

No.	質問内容	回答
1	<p>平尾外周通りと平尾通りの交差点(T字路)付近に尾根遊歩道への連絡階段の設置をしてほしい。 この連絡階段があると地域の住民が徒歩で栗平駅まで行く時間がおおむね5分短縮され住民の負担が軽減され、利便性が大きく向上する。 現在は該当部分付近に危険防止のためにフェンスが設置されて通行ができない状態。既存の平尾住宅21号棟前の階段は、高低差があり段数がとても多くあり、高齢者には上り下りが大変である。今回希望する場所は、高低差が少なく設置が容易と思われる地形的利点がある。</p>	<p>ご要望の階段設置箇所付近には横断歩道がなく、現状では車道を横断することができないため、緑地内への階段を設置することは困難である。横断歩道の設置には、交通管理者である多摩中央警察署との協議が必要となる。 10年程前に同様の提案を受け、当時警察と協議したところ、歩道スペースが十分に確保できないこと、付近がカーブで危険なことを理由に横断歩道の設置は難しい旨の回答を受けた。時間が経っているので、もう一度警察に協議を出すことを検討する。 なお、歩道橋の設置は、お金や設置スペースの問題から難しいと考える。</p>
2	<p>美望会を降りた先から平尾の中央通りに出る手前が暗いので防犯灯の設置を希望する。</p>	<p>現場を確認し、検討する。</p>
3	<p>平尾団地の外周通りに街路灯がついているが、歩道が暗いように感じる。</p>	<p>平尾団地の外周通りについては、車道を照らすための街路灯を設置しており、歩道はその恩恵で照らされている。 現場を確認し検討するが、すでに街路灯が設置されていれば、別で防犯灯を設置する優先度は低い。</p>
4	<p>ひらお保育園が定員割れしており、このままでは閉園してしまうのではないかと危惧している。</p>	<p>日本全体でみると子どもの数は減少しており、保育園も減少している。一方で稲城市では転入者数とともに子どもが増え、全体でみると保育園の定員が足りない状態である。地域ごとにバラつきがあるが、すぐに閉園してしまうほどの人口減少はない。</p>
5	<p>学童クラブの民営先が限られており、サービスの質を高める観点でも様々な企業に民営化させた方が良いのではないか。</p>	<p>市の方針として、全施設の民営化を進めている。民営化によりサービスレベルはあがっている。課題はむしろ待機児童という認識である。 学童クラブには定員があるため、市では定員のない放課後子ども教室を全校に設けている。放課後子ども教室のサービスレベルを学童クラブに近づけるよう時間の延長やおやつの提供を実施している。</p>

No.	質問内容	回答
6	<p>平尾小より「地域支え合いの会議」に、朝や放課後の時間帯に子どもを見守って欲しいという要望があり、見守りをしてきた。市でシルバーセンターを派遣するなど対応を検討して欲しい。</p>	<p>市では早朝の見守りを行っておらず、教育委員会の方針とは異なるものである。放課後の居場所づくりは一定程度、どこの自治体も対応しているが、現在は早朝の居場所づくりという新たな要望が出てきている。教員の働き方改革により教員では実施しない方針であり、東京都も少額の予算で市に対応を依頼している状況なため、事業化するには相当なハードルがある。</p>
7	<p>バスのおかげで地域間の交流や出かけることができ、新路線案では特に以下の2点を何とかしてほしい。 ①平尾から市役所・市立病院まで行く路線の確保 ②平尾内循環を若葉台駅まで行くようにしてもらいたい</p>	<p>現状稲城市は近隣市と比べてもコミュニティバスの数が多い。運転手不足のため、当初小田急バスから路線の全廃止を提案されたが、様々な調整やお願いにより現在の3路線となっており、ご理解いただきたい。乗り換えについては、スマホが使えない方でも分かりやすいよう資料を作成し、市のウェブサイトにも掲載する。なお運転手不足は、今後より深刻化するので新技術に期待したいが、自動運転バスは十分な検証ができておらず期待しづらい。できることとして以下の2点を実施していく。 ①オンデマンド交通の実証実験(乗り合いタクシー)を実施し、有効であれば拡大していきたい。 ②既存の路線バスについて小田急バスに以下を要望していく。 ・平尾方面から市立病院行きのバスの増便(朝の時間帯に1、2本でも要望したい) ・稲城駅終点となっている路線を市役所まで延伸 ・新コースの平尾循環路線を若葉台駅まで延伸</p>